

分類の理論と応用に 関する研究会会報

JAPANESE CLASSIFICATION SOCIETY NEWS

No. 9

1989. 3. 15

発行 分類の理論と応用に関する研究会 Tel. 446-1501 銀行口座—三菱銀行広尾支店普通0134368
〒106 港区南麻布4-6-7 統計数理研究所気付 振込口座—東京8-83836番

味と匂の分類について 吉田 正昭

生物学の中では、分類学を志す者は時代遅れ視されることが多いが、私は個人的には植物分類が趣味の一つであり、ささやかな庭にも花と香の賞でられる木草が相当数植えられている。東京に住んでいると、北方系と南方系の植物の双方が育つけれども、地方に移植すると、勢づいたり枯れたり、どちらの系統か素人にも見当がつく。

私が学術面で味や匂、触感に興味をもち始めたのは約30年前のことだから、分類法についても、その結果についても古典的文献以外は皆無だった。ヘニング、H（独・心理学者）が味の四面体、ニオイのプリズムといった分類図案を提案したのは第1次大戦中～直後であり、昭和10年代に心理学の講義をしていた亡父が、黒板にこれらの図を描いている写真が拙宅に残っている。しかし、私自身がそれを再検討することになろうとは夢にも思わなかった。『官能検査ハンドブック』（初版、1962）の中で、当時提案されたばかりの多次元尺度法を応用しては如何？と書いたこともあるが、これまた他に手がける人が現われなかったので、自分自身で何遍か論文を書くことになった。

最初に私の仕事を認めてくれた欧米人は、味覚臭覚の研究者として遇してくれるが、口の悪い人は、ニオイの分類なんか志す奴は、(イ)研究費がないからか、(ロ)大山師かの何れかだとさえ云う。

「味の四面体」については、ヘニングの提案通り、甘苦鹹酸の4種に限れば肯定される。甘い、甘酸いなどの2種の成分を併せもつものは綾線上に、甘酸鹹の3配酢などは3角形の表面上に位置づけられる、という彼の提言通りになる。た

だ、旨味、渋みなどを追加すると、此の四面体の外に出てしまうことは、純粋の水溶液で実験した各々のところでも、スープ、ブイヨンなどを基液として各種呈味物質を添加した味の素(株)の山口静子氏の実験でも、共通している。その一方では、大まかな甘苦鹹酸のみならず、甘味料だけで分析すると、2-3種類の系統があるらしい、という説もあり、私達の実験室の近年の結果でも同様の傾向が伺われる。此のように、味覚関係では、先人の提案と努力の上に、後人の仕事が累積されつつある点で、科学的だといえるが、臭覚関係では必ずしも同様の「進歩」が認められるとはいえない。

香料業界、化粧品業界などでは、香水のA型、B型、…といった3種～10数種類の区分をし、価格帯とタイプ別で、推奨の際の枠組みを作ろうとしている。このような応用分野でも、またヘニング——ツワルデマーカーのような基礎的領域でも、先人の提案（例えばニオイのプリズム）を覆すことは容易だが、代りの新提案は仲々なされない。また仮に誰かが提案しても、すぐ反証がもたらされる。だからこそ、上記のような研究費欠乏症か大山師かといった悪口が漏らされることになるわけである。因子分析や多次元尺度を用いた報文は、米、欧、日とも相当数に上がるが、結果は発散する一方で、累積的進歩にはほど遠い。昔から新しい物理学説が提案され、化学分析機器などが開発されると、隣接領域でもそれを援用してブレイクスルーを試みることが多いが、ニオイの分類に関しては、前世紀末以降、何回かのこのような企てにもかかわらず、末だに成功していないのが現状である。多変量解析の手法だけ進歩しても、素材となる実験調査データが妥当でないと、此のようにならざるを得ないということであろう。

(中央大学理工学部)

第6回通常総会報告

日時：昭和63年7月23日 17:00～18:00

場所：統計数理研究所

出席者：大友篤，石塚隆男，今泉忠，上田尚一，
大隅昇，佐藤義治，周防節雄，鈴木茂，
野元菊雄，馬場康維，松田芳郎，宮原英
夫，村上征勝，矢島敬二，渡辺美智子
(以上15名)

第6回シンポジウムの後，昭和63年度通常総会
が開催された。以下にその要旨を報告する。

1. 会長挨拶

酒井清六会長が海外出張中のため，大友篤幹
事長が挨拶した。

2. 議長選出

野元菊雄氏（国立国語研究所）を議長に選出
した。以後の議事は野元議長が進行した。

3. 議事

1) 昭和62年度事業報告，同決算報告および会 計監査報告

大友幹事長より，昭和62年度事業報告があり，
いずれも承認した。馬場庶務幹事より同
決算報告，村上会計監事より会計監査報告が
あり，これを承認した。

2) 昭和63年度事業計画

大友幹事長より，以下の昭和63年度事業計
画の説明があり，いずれも承認した。

事業計画は以下の通り。

i) 第5回研究報告会の開催

昭和63年12月を予定している。

ii) 第6回シンポジウムの開催

昭和63年7月23日に開催する。

iii) 会報の発行

第8号（昭和63年4月20日付で発行）

および9号を発行する。

iv) 昭和63・64会計年度内に簡単な英文紀 要の発行を検討している。

v) 総会および運営委員会，幹事会の開催

・運営委員会，幹事会を随時開催する。

・第6回通常総会の開催

vi) 国際分類学会連合（IFCS）第2回

国際研究集会への協力

米国（ヴァージニア大学）で1989年6
月27日～6月30日に開催される第2回
国際研究集会事務局 Sokal 氏より次の3項
について協力要請があった。これについ
ては，以下のように対応した

a. 招待講演者の推薦

幹事会で検討することとした。

b. 開催大会委員の推薦

IFCS委員で話し合ってもらい大
隅委員を推薦した。

c. 国際大会事務局の運営費の寄付

事務局費用がまかなえないので援助
してほしい旨の要請があったので，運
営委員会にはかり150ドル送金するこ
ととした。

3) 昭和63年度予算審議

馬場庶務幹事より昭和63年度の予算につい
て説明がありこれを承認した。

4) IFCSG関連事項報告

矢島，大隅IFCS委員より第2回IFCS
S国際研究集会について報告があった。（内
容については2）-vi）参照）



《昭和62年度決算書》

《収入の部》

昭和63年3月31日現在

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
前期繰入金		5,640	5,640
会費収入	会 費	694,000	528,000
	62年度分	(384,000)	(344,000)
	58~61年度未納分	(310,000)	(166,000)
	63年度分		(8,000)
	入会金		(0)
	62年度分		(0)
	58~61年度未納分		(10,000)
雑収入	予稿集売り上げ	85,000	133,500
	大会・シボウム参加費	(10,000)	(12,000)
	(報告集を含む)	(75,000)	(121,500)
利 子		0	76
	計	784,640	667,216

《支出の部》

昭和63年3月31日現在

科 目	細 目	予算額 (単位円)	決算額 (単位円)
経常運営 関係費	会報印刷代	265,000	135,150
	会誌印刷代	(85,000)	(53,000)
	連絡用印刷費	(120,000)	(0)
	(総会関連資料, 封筒, 葉書等)	(60,000)	(82,150)
大会開催費 (シボウム含)	報告集印刷代等	210,000	231,380
	開催費(茶葉代等)	(180,000)	(186,480)
		(30,000)	(44,900)
事務費	人件費(交通費含)	224,640	331,180
	事務用品費	(200,000)	(319,000)
	(事務消耗品, 手数料他)	(24,640)	(12,180)
通信郵送費	会報送料	85,000	75,210
	会誌送料	(45,000)	(12,740)
	切手, その他	(40,000)	(0)
		(0)	(62,470)
	計	784,640	772,920

監査の結果, 上記のとおり相違ない事を証します。

昭和63年7月11日 会計監事

村上 征勝

官井 正彌



《昭和63年度予算書》

《収入の部》 昭和63年4月1日現在

科 目	細 目	予算額 (単位円)
前期繰入金		△105,704
会費収入	63年度会費 62年度までの未納分 (入会金を含む)	644,000 (403,000) (241,000)
雑収入	シンポジウム予稿集 大会参加費 (報告集を含む) その他	210,000 (10,000) (120,000) (80,000)
小 計		854,000
計		748,296

《支出の部》

科 目	細 目	予算額 (単位円)
経常運営関係費	会報印刷代 会誌印刷代 連絡用印刷費	212,000 (102,000) (50,000) (60,000)
大会開催費 (シンポジウム含)	開催費 報告集印刷代	220,800 (40,000) (180,800)
事務費	人件費 事務用品費 その他	210,000 (200,000) (10,000)
通信・郵送費	会報送料 会誌送料 切手,その他	64,000 (24,000) (20,000) (20,000)
予備費		41,496
計		748,296

幹事会記録

第2回幹事会議事録 (昭和62・63年度)

日 時：昭和63年4月7日 (木) 15:00~20:00

場 所：統計数理研究所 新館特別会議室

出席者：大友篤，馬場康雄，今泉忠，酒井清六
(会長)，林知己夫，大隅昇 (IFCS
担当委員) (以上6名)

議事内容は以下の通りである。

1. 林 IFCS 担当委員から，去る8月にローマで

開催された研究集会 (Multi-way88') における，
非公式の IFCS 小会合の議論の内容についての報
告があった。要旨は，

- a) ベルギー・オランダで一つの支部を作る予
定があること
 - b) ユーゴスラビアも参加の意志があること
 - c) 現会長 Sokal 氏から IFCS 事務局の secre-
tary 追加の依頼があること
 - d) COMPSTAT 88 (デンマーク) で次の小会
合を開く予定であること
- などである。

2. 大隅氏より大会プログラム委員長 (R. Ling)

から日程変更の通知と幾つかの要請があった旨の報告とそれに関する次の説明があった。

- 1) 大会開催が1989年7月11日～14日と変更になった(その後さらに変更され、1989年、6月27日～30日となったという連絡が委員宛てにあった)。
- 2) セッションの構成について
 - (i) セッションあるいはトピックスの提案と協力の依頼
 - (ii) セッションのオーガナイザーとしての協力依頼、あるいは適切な候補者の推薦の依頼
 - (iii) 招待講演者の扱いについて

これらの事項について討議した。

(i) については、大隅 IFCS 委員より、前回の IFCS 大会 (Aachen) でのセッションの他に次のテーマを加えたらどうかとの提案があった。

- The place of artificial intelligence, knowledge engineering, and expert systems in clustering.
- Clustering algorithms and software.
- Point of intersection between statistical modeling and cluster analysis
- Computer graphics and methods of representing clustering results.
- Secondary analysis of clustering results and interpretation of classification results.
- Problems in cluster identification.

これに対し、大友幹事長から社会科学での応用を付加する案が出された。また、酒井会長より、様々な分野での「科学」を加えてはどうかという案が出された。検討の結果、上記のセッション名に应用到するものを付け加えることにした。

(ii) については大友幹事長、矢島 IFCS 委員、上田幹事、馬場幹事をセッションのオーガナイザーとして推薦することとした。また、大会への出席を前提としないことがゆるされるなら林、大隅の各委員も加えることで了承した。

(iii) の招待講演者の扱いについては、なるべく各分野から平等に選出することとし、日程や研究分野別構成などを考慮して会員を推薦することとした。

また、大隅委員の得た情報(大会実行委員長、

Bozdogan, プログラム委員長, R. Ling の手紙等)では、招待者の旅費の支払方法、Proceedings の編集・出版の具体的な方法等について、まだ不明な点や不確定な要素があることが説明された。

これらについては、大隅委員が大会プログラム委員として R. Ling へてに手紙を書き意見を述べることにした。

3. 英文アブストラクトの電子出版について

大隅委員から研究報告会の英文要旨とその電子出版について提案があり、目的、方法、作成要領の説明があった。

林委員より表題は Abstract とするよりも Bulletin の方が良いのではないかと言う意見が出された。

大友幹事長より報告者に英文作成の必要が生じるが、その結果発表を差し控える会員がでるというような影響があるのではないかという疑問が提起された。

馬場幹事より英文要旨の作成を義務とすることが適当かどうかという意見が出された。

これらについて、次回の幹事会で検討することとした。

また、電子出版の進め方をなるべく早く取りまとめ、7月に予定している通常総会かあるいは12月に臨時総会を開き承認を得るようにするとの方向で了承した。

4. 第6回シンポジウムについて

第6回シンポジウムの日程などについて馬場幹事より説明がなされ、討議の結果、7月23日(土)に統数研で行なう予定とすることを了承した。

大隅委員より現在統数研に滞在中の Bozdogan 氏(バージニア大学)に招待講演をお願いしたいとの提案があり検討の結果これを了承した。

また、シンポジウムの共通テーマについては次回幹事会で決定することとした。

5. その他

馬場幹事より、会報は4月20日付けで発行の予定である旨の報告があった。また、通常総会議事録(案)について説明がなされた。種々検討の結果、問題点があれば後日その問題点を馬場幹事まで知らせることとした。

会報の発行について馬場幹事より年2回位(4月と10月)定期的に発行したい旨の案が出された

検討の結果、了承された。また、会報記事の提供などについて幹事への協力要請があった。この事について討議の結果、会報作成の為の資料（関連文献等）を幹事が協力して収集することとした。

同幹事より会費徴収状況の説明があった。大隅幹事よりセミナーの開催、広告収入等により収入増を図ることや、数年分の会費の一括徴収などの案が、また、大友幹事長より会員募集に努めよとの提案がなされた。討議の結果、今後の幹事会で順次検討することとした。

大隅幹事より会則の変更についての文面と研究報告の執筆要領（和文、英文）についての説明がなされた。

次回幹事会を5月10日（火）に開催することとした。

第3回幹事会議事録

日時 昭和63年5月10日（火）17時～19時30分

場所 統計数理研究所 談話室

出席者 大友篤、馬場康維、今泉忠、

酒井清六（会長）、

大隅昇（IFCS担当委員）

議事

1. 馬場幹事よりシンポジウムの共通テーマを決定する必要がある旨の提案がなされた。大隅委員より第1回から第5回までのシンポジウムまでのテーマが(1)分類の理論と応用、(2)官庁統計、言語、医学、(3)地域、マーケティング、都市工学、(4)遺伝資源、図書情報、(5)地理、観光資源、計量地理である旨とその内容について説明がなされた。酒井会長より産業心理・社会心理に於ける分類を、また、大隅委員より生物、昆虫における分類をシンポジウムの共通のテーマとしてはどうかとの提案があった。協議の結果、生物、昆虫における分類は第7回の共通テーマとする事にした。大友幹事長より共通テーマを社会経済的分類とする提案があった。検討の結果、このテーマを共通テーマとしてその講演者数としては4人程度とする事とし、オーガナイザーを大友幹事長に委任する事とした。また、講演販者の人選については大友幹事長に一任する事とした。

第2回IFCS大会の案内

2nd Conference of the International Federation of Classification Societies, 27 - 30, June, 1989, Charlottesville, VA, USA.

●国際研究集会のお知らせ

下記の集会の案内が来ております。関心のある方はお問い合わせ下さい。

The 5th Conference on the Scientific Use of Statistical Software, 2-6, April, 1989, Heidelberg, FRG.

21st Symposium on the Interface of Computing Science and Statistics, 9-12, April, 1989, Orlando, FL, USA.

Gesellschaft für Klassifikation e. V., 10-12, April, 1989, Universität Augsburg, FRG.

43rd Annual Quality Congress, 8-10, May, 1989, Toronto, Canada.

Medical Informatics & Education International Symposium, 15-19, May, 1989, Victoria, BC, CANADA.

CAR '89-Drittes Internationales Symposium über computerpestützte Radiologie, 25-26, June, 1989, Berlin, FRG.

WNAR 1989 Annual Meeting, 25-28, June, 1989, Davis, CA, USA.

1989 Joint Statistical Meetings, cosponsored by American Statistical Association (150th Anniversary), Biometric Society (ENAR, WNAR), Institute of Mathematical Statistics, 6-10, August, 1989, Washington, DC, USA.

3rd International Conference on Recent Developments in Statistical Sciences, 14-20, August, 1989, Neuchatel, Switzerland.

11th International Joint Conference on Artificial Intelligence, 20-26, August, 1989, Detroit, MI, USA.

International Statistical Institute, 47th Biennial Session, 29 August-9 September, 1989, Paris, France.

Statistical Methods Biopharmacy – Satellite Meeting of the 47th Session of the ISI, 7-8, September, 1989, Paris, France.

Analyse des Donnees Data Analysis, 11-14, September, 1989, Antibes, France.

Management of Quality-The Key to the Nineties, 33rd EOQC Annual Conference, 18-21, September, 1989, Vienna, Austria.

IUSSP International Population Conference, 20-27, September, 1989, New Delhi, India.

The 6th World Congress on Medical Informatics, 16-20, October, 1989, Beijing, PRC.

13th Annual Symposium on Computer Applications in Medical Care(SCAMC), 1-4, November, 1989, Washington, DC, USA.

7th European Congress of Associations of Administrators of Medical Records, December, 1989, Paris, France.

●新刊・雑誌の紹介

〔関連図書〕

(1) P.Lane, N. Galwey and N. Alvey
Genstat 5 An Introduction. CLARENDON PRESS. OXFORD (1987).

(2) D. J. Hand
Artificial Intelligence and Psychiatry. Cambridge University Press.

(3) A. Albert and E. K. Harris
Multivariate Interpretation of Clinical Laboratory Data. Marcel Dekker Inc. (1987).

(4) W. Gaul and M. Schader(eds.)
Classification as a Tool of Research:Proceedings of the 9th Annual Meeting of the Classification Society. NORTH-HOLLAND (1985).

(5) H. H. Bock (ed.)
Classification and Related Methods of Data Analysis:Proceedings of the First Conference of the International Federation of Classification Societies (1987). NORTH-HOLLAND (1988).

(6) C. Hayashi, E. Diday, M. Jambu and N. Ohsumi
Recent Developments in Clustering and Data Analysis:Proceedings of the Japanese-French Scientific Seminar Academic Press (1988).

〔ジャーナル〕(抜粋)

COMPUTATIONAL STATISTICS & DATA ANALYSIS Vol.6, No.1 1988

A. T. Cate and J. Middeldorp, A Review of Micro-TSP a Software Package for Econometric Analysis.

M. E. Vogel, Review of SPSS PC + Statistical Package.

COMPUTATIONAL STATISTICS & DATA ANALYSIS Vol.6, No.2 1988

M. S. Vosvrda, Statistical Data Analysis by Dialogue Statistical Systems.

JOURNAL OF CLASSIFICATION Vol.5, No.1

F. Critchley and W. Heiser, Hierarchical Trees Can be Perfectly Scaled in One Dimension.

M. R. T. Dale and J. W. Moon, Statistical Tests on Two Characteristics of the Shapes of Cluster Diagrams.

M. J. Greenacre, Clustering the Rows and Columns of a Contingency Table.

N. Balakrishnan and M. L. Tiku, Robust Classification Procedures Based on Dichotomous and Continuous Variables.

P. Bryant, On Characterizing Optimization-Based Clustering Methods.

J. P. Barthélemy, Comments on "Aggregation of Equivalence Relations" by P. C. Fishburn and A. Rubinstein.

P. C. Fishburn and A. Rubinstein, Acknowledgment of Priority.

V. Brailovsky, Function Approximation for Incompletely Specified Regression Models.

G. De Soete, OVWTRE: A Program for Optimal Variable Weighting for Ultrametric and Additive Tree Fitting.

M. P. Windham, Mixture Models: Inference and Applications to Clustering, by G. J. McLachlan and K. E. Basford.

J. W. Hutchinson, Multidimensional Data Analysis, edited by J. de Leeuw, W. Heiser, J. Meulman, F. Critchley.

S. Nishisato, The Application of Fuzzy Coding and Horseshoes in Multiple Correspondence

Analysis, by J. van Rijckevorsel.

L. Lebart, Correspondence Analysis of Longitudinal Categorical Data, by P. G. M. van der Hijden.

G. W. Furnas, Three-way Scaling and Clustering, by P. Arabie, J. D. Carroll, and W. S. DeSarbo.

R. C. Dubes, Simulated Annealing: Theory and Applications, by P. J. M. van Laarhoven and E. H. L. Aarts.

F. Critchley, Multiple Scalling: The Theory and Application of Partial Order Scalogram Analysis, by S. Shye.

F. Critchley, An Introduction to Multivariate Statistical Analysis, Second Edition, by T. W. Anderson.

A. D. Gordon, Data Analysis in Real Life Environment, edited by J. F. Marctorchino, J. M. Proth, and J. Janssen.

F. Murtagh, Combinatorial Heuristic Algorithms with FORTRAN, by H. T. Lau.

U. Bockenholt, Progress in Mathematical Psychology-I, edited by E. E. Roskam and R. Suck.

P. K. Hopke, Potential Pattern Recognition in Chemical and Medical Decision Making, by D. Coomans and I. Broeckaert.

D. Wartenberg, Statistical Techniques in Geographical Analysis, by G. Shaw and D. Wheeler; and Mathematical Methods in Human Geography and Planning, Handbook of Applicable Mathematics, Guidebook 7, by A. G. Wilson and R. J. Bennett.

G. W. Milligan, Pattern-Analytic Clustering:

Theory, Method, Research and Configurational Findings, by L. L. McQuitty.

W. H. E. Day, The Traveling Salesman Problem: A Guided Tour of Combinatorial Optimization, edited by E. L. Lawler, J. K. Lenstra, A. H. G. Rinnooy Kan, and D. B. Shmoys.

IEEE TRANSACTIONS ON SYSTEM, MAN, AND CYBERNETICS Vol.17, No.2 1987

I. Foroutan and J. Sklansky, Feature Selection for Automatic Classification of Non-Gaussian Data.

ROYAL STATISTICAL SOCIETY Vol. 150, No.2 1987 A. D. Gordon, A Review of Hierarchical Classification.

JOURNAL OF MARKETING RESEARCH Vol. 114 1987

J. D. Carroll, P. E. Green, and C. M. Schaffer, Comparing Interpoint Distances in Correspondence.

JOURNAL OF MARKETING RESEARCH Vol. 115 1988

J. D. Carroll and P. E. Green, An INDSCAL-Based Approach to Multiple Correspondence Analysis.

INFORMATION PROCESSING & MANAGEMENT Vol.24, No.5 1988

P. Willett, Recent Trends in Hierarchical Document Clustering: A Critical Review.

JOURNAL OF APPLIED STATISTICS Vol.15, No.2 1988

N. Smeeton and G. Wilkinson, The Detection of Annual Clusters in Individual Patterns of Parasuicide.

COMPUTATIONAL STATISTICS QUARTERLY Vol.3, No.3 1986

H. Bozdogan and D. E. Ramirez, Testing for Model Fit: Assessing and Box-Cox Transformations of Multivariate Data to 'Near' Normality.

H. J. Ader, Planar Representation of a Cluster Solution.

R. Cleroux, J.-M. Helbling and N. Ranger, Some Methods of Detecting Multivariate Outliers.

COMPUTATIONAL STATISTICS QUARTERLY Vol.3, No.4 1987

K. E. Basford, W. T. Federer and N. J. Miles-McDermott, Illustrative Examples of Clustering Using the Mixture Method and Two Comparable Methods from SAS.

SYSTEMATIC ZOOLOGY Vol.36, No.1 1987

M. A. Bell and P. Legendre, Multicharacter Chronological Clustering in a Sequence of Fossil Sticklebacks.

COMMUNICATIONS IN STATISTICS Vol.17, No.2 1988

S. Singh, Estimation in Overlapping Clusters.

THE BRITISH JOURNAL OF MATHEMATICAL & STATISTICAL PSYCHOLOGY Vol. 40, Part 1 1987

C. Robertson and H. D. Ellis, Estimating the Effects of Various Clustering Schemes on Recall Order.

FUZZY SETS AND SYSTEM Vol.21, No.1 1987

R. E. Dalton, A Dissimilarity Criterion for Sequential Fuzzy ISODATA (Short Communication).

FUZZY SETS AND SYSTEM Vol.25, No.2 1988

E. Trauwaert, On the Meaning of Dunn's Partition Coefficient for Fuzzy Clusters.

FUZZY SETS AND SYSTEM AN INTERNAT
IONAL JOURNAL Vol.26, No.3 1988

P. Eklund and W. Gahler, Basic Notions for
Fuzzy Topology, I.

L'ANALYSE DES DONNEES Vol.12, No.2 1987
Sur la complexite des algorithmes de Classifica-
tion Ascendante Hierarchique.

Sur la recherche des plus proches voisins Suivant
une decomposition cellulaire de l'espace en
classification Ascendante Hierarchique.

● [コンピュータ・プログラム
／ソフトウェアの紹介]

(1) SST (Statistical Software Tools)
[Garcia-Boque Research and Development, Ltd.,
P.O.Box 37-7710, Chicago, Illinois 60637, USA]
IBM/PC-XT, AT, IBM SYSTEM/2用。記述統計、
クロス集計、散布図、回帰、重回帰分析、
プロビット・ロジット・モデル、ハザード・モデル、
多項ロジットモデルなどを、コマンド方式で利用
する。操作性はなかなかよい。なお、このソフト
は科学警察研究所の原田豊氏からご紹介いただいた。
PC-98 上でも稼動する (MS-DOS 下)。

(2) MINITAB/PC
[Minitab inc.,3081, Enterprise Drive, State
College, PA 16801, USA.]
教育用あるいはEDA的な処理に適したソフトウ
ェアとして知られている MINITAB の、ワーク
ステーション用、マイクロコンピュータ用のバー
ジョンが多数提供されている。とくに、IBM/PC
用のものがあるが、これを NEC の PC-98 系で
も稼動させることができる (MS-DOS 下)。メ
インフレーム用の MINITAB の良さを生かして
いるが、複雑な統計モデルの構築には適さない。
また、重回帰分析、主成分分析などの計算で怪し
い答えを出すことがある。

(3) JUSE/GDAS
[㈱日本科学技術研修所 (東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-30-3), ㈱フォスター (神奈川県海老名市河原
口985-3)]

JUSE の統計ソフトウェアのシリーズの一つで、
グラフィクス機能を集めたもの。
データの吟味 (各種ヒストグラム、検定など)、
多変量連関図、各種ビジネスグラフ (円、レーダ
ーチャート、棒、折れ線、パレート図、三角形な
ど)、時系列データの解析、単回帰、重回帰分析
など。変数変換機能、データ選別機能、層別化機
能などがある。

(4) Macintosh 用のソフトウェア
• Data Desk Professional
[Odesta Corporation, 4084 Commercial Avenue,
Northbrook, Illinois 60062, USA]

Data Desk の改定版であるが、旧版とは大幅にイ
メージが変わり、マイクロコンピュータ向けのソフト
の一つの在り方を見せるような、面白いものにな
っている。とくに、同時的ブラッシング、グラフ
の自自由操作、3D回転、簡易言語によるデー
タ選別、数値計算などが面白い。なお、データベ
ースソフトウェアである Double Helix II と共有
できる。他の外部ファイルとのやり取りも簡単に
できる。

• STAT80
[Statware, inc., P. O. Box 510881, Salt Lake
City, Utah 84151, USA]

機能としてはメインフレーム用に匹敵する位多数
の手法課題が含まれている (というよりもメイン
フレームからの改編であるとのこと)。データ入
力編集などはスプレッドシート形式をとっている
が、操作の主体はコマンド方式であって、MINI
TAB に類似する。ただし、Macintosh のプルダ
ウンメニュー方式は用いているが、Mac の環境
は十分には生かされていない。

• STAT TOOL KIT
[SOFT-WARE TOOLS, P. O. Box 8751, BOISE,
Idaho 83707, USA]
統計検定手法、分散分析法などの基本的な手法を
含む。これといった特徴のないソフトウェア。

• StatView SE+Graphics

[Abacus Concepts, Inc., 1984 Bonita Avenue, Berkeley, CA 94704, USA, BrainPower Inc., 24009 Ventura Boulevard, Calabasas, CA 91302, USA]

従来の StatView512+を強化したものの。とくにグラフィックの機能をオブジェクト対応としたところが要点。これは、Cricket Graphの機能を搭載したとのこと。なお Mac II用の Statview IIもあり、こちらはカラー対応になっている。全体の操作性がよく、外部ファイルの授受も簡単にできる。

• MYSTAT

[SYSTAT, 1800 Sherman Avnue, Evanston, Illinois 60201, USA]

SYSTATの Personal versionとして登場したものの。従来の SYSTATがコマンド方式のサブミット型処理方式であったのに対して、Mac対応のメニュー方式となったことが目新しいが、StatView, Data Deskなどを見てしまうと、Macの環境を十分に生かしているとはいえない。また従来もそうであったが、データの入力(ファイルから)に非常に時間がかかるのはいただけない。かえって、SYSTATのほうが使いやすいという感じ。

• MacSS (StatFast-2の改訂版と思われる)

[StatSoft Inc., 2235 East 13th Street, Tulsa, Oklahma 74104, USA]

StatSoft社が提供する統計ソフトウェアのシリーズ(STAT+, APP-STAT, Q-FAST, CSS, MacSS)の一つ。基本統計・記述統計、重回帰分析、分散分析、ノンパラメトリック検定などの標準的な手法を含む。データ入力・編集機能はスプレッドシート方式、メニュー方式である。なお、STATS+, Q-FAST, CSSは主にIBM/PC用。

• MacFits

8種の回帰分析だけを含むミニソフト。Basicのコンパイラが必要である。

• Cricket Graph/V1.2

[Cricket Software, Great Valley, Corporate

Center, 30 Valley Stream Parkway, Malvern, PA 19355, USA]

ビジネス・科学グラフ用のソフトとして著名なもの。12種類のグラフだけに限定されるが、作画がオブジェクト対応となっているので、グラフの編集やワードプロセッサとのやりとりなどの操作が、きわめて容易である。1988年の初めに改編されて、データ入力の高速度化、画像データベース化(PictureBase)、グラフのオプションなどが豊富になった。

事務局から

●会報記事の募集

会員の皆様からのご意見やご希望を会報に掲載したいと考えております。ソフトウェアに関する情報、最新手法の紹介、外国の分類研究情報、他学会の動向、研究室の訪問記など記事をお寄せ下さい。幹事会のメンバーの守備範囲がどうしても限られてしまいますので、ご意見、ご希望などをお寄せ頂けると助かります。

また、会員の皆様への情報提供として、各種学会、シンポジウム、研究会等の案内を掲載して行きたいと考えております。現在、掲載ご希望の学会など、あるいは今後、動向を知りたい学会名等、どんな情報でも、お知らせ下さい。

宛先：〒106 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所
分類研究会事務局

●会費納入のお願い

平成元年度の会費納入をお願いします。

また、昨年度までの会費(2000円/年)を未納の方はすみやかにご入金願います。会の円滑な運営のためにもよろしくご協力下さい。

郵便振替口座 東京8-83836

銀行口座 三菱銀行広尾支店 普通0134368

なお、水曜日には事務員がおりますので、直接持参される方は水曜日にお問い合わせいたします。

変

自

新登場

幻

在

1. データチェック機能を大幅強化
2. 厳選された解析機能

重回帰分析・数量化Ⅰ類・判別分析・数量化Ⅱ類・主成分分析

3. 充実したオプション機能

オプションメニューの選択により更に高度な解析が可能

4. データの互換性も自由自在

30変数×600サンプルのデータ行列と、従来のJUSE-QCASとの互換性があり、その上データはMS-DOS上のテキストファイルですので容易に他のソフトとリンク可能。又蓄積されたデータを無駄なく、より有効に活用できるようにファイル相互のコンバータも用意しております。

■関連ソフトウェア

- JUSE-QCAS / IQC七つ道具編 / Ⅱ実験計画法編 / Ⅲ回帰分析編 / Ⅰ + Ⅱ + Ⅲ総合編
- ユーティリティ / Ⅰファイル編集・変換 / Ⅱ LANFIL コンバータ / Ⅲ Multiplan コンバータ / Ⅳ BASE コンバータ / Ⅴ dBASE コンバータ

展示デモ実施中!!

お電話のうえ、気軽にお越しください。

東京：渋谷区千駄ヶ谷4-30-3 TEL03-479-6961 <水曜13時~17時>

大阪：大阪市北区梅田(大阪駅前第2ビル2F) TEL06-343-9331 朝日ハイメディアセンター内パソコンゾーン

JUSE 日本科学技術研究所

●お問合せ先：株日本科学技術研究所 JUSE-QCAS担当 TEL03-479-6896~7(直)
本 社：〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-30-3 TEL03-479-1700代

JUSE-QCAS®

MA1 多変量解析編1

価格..... ¥98,000

■適用機種

NEC-9800シリーズ・9801/F/E/M/Vシリーズ/XL

日立B16/EX, MXシリーズ・2020

IBM5550/B/G/J/K/H(5540・5560稼動可)